

板橋区版AIPの現時点での達成状況及び現在までの効果・課題等について

| 分野              | 主要事業名                  | 現状値(平成31年1月1日現在)   | 平成30年度           | 平成31年度                                       | 平成32年度                    | 現在までの効果・課題等   |
|-----------------|------------------------|--|------------------|--|---------------------------|---|
| 総合事業／生活支援体制整備事業 | 住民主体の通所型サービス           | 18団体登録   | 5団体増加            | 5団体増加  | 5団体増加                     | 平成28年度より開始し本事業は、費用の効率化により、利用の拡充、要支援・要介護認定に至らない高齢者の増加と重度化防止を目指している。<br>現在18団体登録 参加延人数5,300人(見込)  |
|                 | 高齢者の暮らしを拓げる10の筋カトレーニング | 28グループの立ち上げと継続支援   | 60グループの立ち上げと継続支援 |  |                           | 通いの場と参加者が広がる介護予防による地域づくりを目指し、住民運営で週1回「10の筋トレ」を行うグループの立ち上げ・継続を支援する。平成29年度試行実施し、本年度から本格実施。現在32グループ登録者617人。体力測定参加者アンケートでは9割強の方が、仲間づくりの効果があると回答している。  |
|                 | 生活支援体制整備事業             | 18地域立ち上げ   | 新たに5地域に着手        | 18地域全ての日常生活圏域に協議体と生活支援コーディネーターを設置配置、協議体の継続支援 |                           | 平成30年度に全18地域の協議体立ち上げが完了する。協議体を全地域で継続開催し、周知を図りながらその地域に応じた支え合いの仕組みづくりを出来る範囲で進めていく。また、協議体の取組みへの理解・関心・賛同を広げることを目指す。   |
| 医療・介護連携         | 療養相談室                  | 1か所  | 1か所              | 1か所  | 1か所                       | 相談内容について、在宅看取りに関する相談や認知症に関する相談など多岐に渡る相談が区民や病院など多方面から寄せられているが、関係機関と連携して一件ずつ丁寧に対応しており、ワンストップの相談窓口として一定の効果を上げている。<br>相談件数について、平成29年度は年間375件であったが、今年度は1月までの件数で356件と400件に届く見込みであり、増加している。しかし、平成28年度(事業開始当初)の502件には届かない見込であるため、今後も積極的に事業の周知を行い、相談件数増を目指す。 |
|                 | 医療・介護・障がい福祉連携MAP       | 登録数<br>総数<br>1,435件<br>(57.3%)<br>医療<br>566件<br>(54.7%)<br>介護<br>647件<br>(60.4%)<br>障がい<br>222件<br>(55.6%) | 登録数<br>1,500件    | 登録数<br>1,750件                                | 登録数<br>1,875件             | 空き情報の調査公開などによる多職種間のスムーズな連携を促している。<br>登録率の向上が今後の課題となる。   |
| 認知症施策           | 認知症サポーターの養成            | 1,694人養成<br>(累計24,546人)  | 2千人養成            | 2千人養成  | 2千人養成                     | 本事業は、認知症を理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する認知症サポーターを養成することで、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを推進することを目的としている。<br>様々な機会をとらえて講座を実施することで、幅広い年代において認知症サポーターを養成することができている。   |
|                 | 認知症初期集中支援事業            | 初期集中支援チーム2チーム増設。<br>(合計15チーム活動)  | 2チーム増設           | 4チーム増設                                       | 全地域包括支援センターにチームを設置し、活動を継続 | 本事業は国が策定した「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」を受け、平成28年度より開始。認知症の疑いがあるが、医療機関の受診や介護サービス利用等が困難なケースについて、多職種で集中的な介入を行うことにより、地域での暮らしを継続できるような支援体制の構築を目指している。平成31年度に区内全ての地域包括支援センター内(19か所)に支援チームを設置する予定。   |

板橋区版AIPの現時点での達成状況及び現在までの効果・課題等について

| 分野           | 主要事業名                             | 現状値(平成31年1月1日現在)                             | 平成30年度    | 平成31年度    | 平成32年度    | 現在までの効果・課題等   |
|--------------|-----------------------------------|--|-----------|-----------|-----------|---|
| 住まいと<br>住まい方 | 高齢者見守り<br>キーホルダー                  | 9,837個配付                                     | 2千個<br>配付 | 2千個<br>配付 | 2千個<br>配付 | 平成28年度より開始した本事業は、高齢者が外出先で倒れたり、保護されたりした際に、キーホルダーの識別番号により本人の身元をいち早く確認し、緊急連絡先につなぐことを目的としている。<br>また、キーホルダーの申請時を他の福祉・介護サービスの案内・導入のきっかけとすることにより、問題の早期発見、早期対応にもつなげていく。(事業開始時からの身元等問い合わせ件数 39件)<br>平成31年度においては、地域包括支援センターの新設及び名称変更、圏域変更に伴い、高齢者見守りキーホルダーを追加購入する。 |
|              | 都市型軽費<br>老人ホーム拡大                  | 5か所  | →         |           | 2か所<br>開設 | -   |
| 基盤整備         | 認知症対応型<br>共同生活介護                  | 26か所   | 1か所       | 1か所       | 1か所       | 第7期介護保険事業計画に基づき、平成30～32年度までに3か所の新規整備を目指す。新規施設として、平成30年8月にサンベストビレッジ舟渡(定員27名)が開設した。また、平成30年度に整備予定だった事業者の辞退に伴う公募の結果、1事業者を選定した。平成31年度は向原三丁目東京都住宅供給公社用地を活用した福祉インフラ整備事業及び選定事業に係る整備、開設に対し補助金交付を行う。計画達成に向け、順調に整備が進んでいる。   |
|              | 定期巡回・随時対応<br>型訪問介護看護              | 4か所  | -         | 1か所       | 1か所       | 第7期介護保険事業計画に基づき、平成30～32年度までに2か所の新規整備を目指す。平成31年度に整備を行う事業者を公募したが、申込みがなかった。公募期間等について見直しを行うと共に、参入の障壁となっている理由を分析し、対策を行う。また、サービス基盤構築のため、既存事業所に係るサテライト型事業所を認める旨の指針について検討を行っている。  |
|              | 小規模多機能型居<br>宅介護、看護小規模<br>多機能型居宅介護 | 12か所<br>(小規模多機能型居宅介護 11か所、看護小規模多機能型居宅介護 1か所) | 1か所       | 1か所       | 1か所       | 第7期介護保険事業計画に基づき、平成30～32年度までに3か所の新規整備を目指す。看護小規模多機能型居宅介護事業所として平成30年8月にサンベストビレッジ舟渡(登録定員29名)が、小規模多機能型居宅介護事業所として平成30年11月にDHC小規模多機能型居宅介護事業所「赤塚店」(登録定員29名)が開設した。平成31年度に整備を行う事業者を公募したが申込みが無かったため、認知症対応型共同生活介護との併設を条件とする等、公募方法の見直しを行う。                           |

板橋区版AIPの現時点での達成状況及び現在までの効果・課題等について

| 分野      | 主要事業名     | 現状値(平成31年1月1日現在)   | 達成状況   |        |        | 現在までの効果・課題等   |
|---------|-----------|--|--|--------|--------|---|
|         |           |  | 平成30年度   | 平成31年度 | 平成32年度 |   |
| シニア活動支援 | シニア活躍促進事業 | <p>①社会参加の意義についての意識啓発及び情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セカンドライフ情報誌「ステップ」発行(4月配布開始、2,521/4,000部 配布済)</li> <li>・「社会参画・社会貢献ニュース」発行(5月・1月発行済)</li> <li>・講演会・シンポジウム等の開催(8月・9月・2月開催済)</li> </ul> <p>②活動・実践のきっかけとなる社会参画促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティビジネス推進事業(通年実施)</li> <li>・シニアの絵本読み聞かせ講座(通年実施)</li> <li>・地域ボランティア体験講座(1月～実施中)</li> <li>・就労支援セミナー(3回実施済、3月1回実施予定)</li> <li>・福祉施設ボランティア推進事業(通年実施、登録施設数:12、登録ボランティア数:165人)</li> </ul> | <p>①社会参加の意義についての意識啓発及び情報提供(セカンドライフ情報誌「ステップ」及び「社会参画・社会貢献ニュース」の発行、講演会・シンポジウム等の開催)</p> <p>②活動・実践のきっかけとなる社会参画促進事業(コミュニティビジネス推進事業、シニアの絵本読み聞かせ講座、地域ボランティア体験講座等)の実施</p> |        |        | <p>いずれの事業も、社会活動の促進によるシニア世代の健康寿命の延伸や生きがいづくりを目的とした「シニア世代活動支援プロジェクト」の一環で実施している。人とのつながりを生む全ての活動を社会参加活動と位置づけ、社会参加の意義の意識啓発と情報提供(①)を通して、実際の活動に繋がるガイダンス・ライアル事業(②)への参加に誘導する。</p> <p>庁内の横断的な連携が強化しきれていないことを課題と捉え、定期的を開催している「シニア世代活動支援連絡会」「就労支援等連絡協議会」等の会議体を有効活用し、シニア世代の多様な社会参加ニーズに応えられるよう環境整備を進める。</p> <p>平成31年度は新たに、東京大学高齢社会総合研究機構(IOG)と連携し、板橋区版フレイル予防事業を開始する。また、シニア世代が希望の社会活動(就労・ボランティア・地域活動等)の情報を得やすくするために、区公式HP上でのページ整備を行うとともに、セカンドライフ情報誌「ステップ」を改版し、内容の充実を図る。</p> |
| 啓発・広報   | AIP広報紙    | 年2回発行。<br>第4号まで発行済み(第5号を3月発行予定)<br>新聞折り込みにより全戸配布(約140,000世帯)   | 2回発行   | 2回発行   | 2回発行   | <p>広報紙の配布による、板橋区AIPの多種の事業の普及啓発。<br/>今後は広報誌の記事を作成する職員の育成が課題となる。</p>  |

